



■被災地出張授業……2014年 12月11日

# 自立と協働と創造

講師：杉江 和男 学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長  
(DIC 取締役会長)

2014年12月11日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業を行った。今回は、杉江和男 学校と経営者の交流活動推進委員会委員長が宮城県亘理高等学校を訪れ、三年生156人を前に、変化する社会に対応し、貢献できる人材像について語った。



## 働く意味を考え 自立した行動的な人間に

経済同友会の会員企業に、「どのような学生を採用したいか」というアンケート調査を行ったところ、高校、専門学校、大学、大学院のどの生徒・学生に対しても、一番目はやる気、二番目は行動力・実行力、三番目は協調性を重視するという結果でした。企業は、学歴に関係なく、意欲や積極性のある人材を求めています。しかし、残念ながら日本人は外国の人々より、行動力や積極性に欠ける傾向があります。日本人には、周りを尊重し盛り立て、自分だけが出過ぎないようにするという面があるからです。

現在の経済社会では、国境が薄れ、

ビジネスは常に、世界を相手に展開される時代になりました。そこでは日本人も、自分で考え、自ら積極的に行動することが求められます。いかに自立し、行動できるかを常に心掛けてください。

## 環境の変化に応じて 新しく創造する力を付ける

チャールズ・ダーウィンは「最も強い者や、最も賢い者が生き延びるわけではない。唯一、生き残ることができるのは、変化できる者である」と言いました。この言葉を借りれば、変わりゆく社会環境に対し、いかに自分を変化させる力を持てるのが重要ということなのです。

日本で起きている大きな変化は、高齢化と人口減少です。2050年には、今より人口が25%減少すると予想されています。単純に考えれば、食品会社の売り上げが35年後には25%減少することになります。しかし、今より栄養価の高い、あるいは健康に良い商品を開発し、それを高い値段で売ることができれば、その会社は生き残ることができるでしょう。社会の変化に応じ、工夫して、さらに良いもの、新しいものを創造することが大切です。

世界規模で起こっている地球温暖化

の問題にも、注目しなくてはなりません。二酸化炭素の排出量が増えたことで、地球の平均気温が100年で1℃上昇し、異常気象や大洪水が頻繁に起きています。

このような環境の変化に、どう対応すべきか。自動車の例で見えます。今まで自動車会社を作るのは、ほとんどがガソリン車ばかりでした。しかし最近では電気自動車が生産し、さらには、二酸化炭素をほとんど排出せずに水素で動く燃料電池車も開発されました。地球温暖化の問題を無視して、ガソリン車を作ることにばかりに専念している自動車会社は生き残れないのです。このように、皆さんも社会環境の変化に目を向け、さらに良い商品を作ったり、効率良く作業するための方法を考えたり、仕事を工夫し、改善する努力を惜しまないでください。仕事の中に夢や希望を見いだせば、努力して自分の能力をさらに伸ばすことができます。その結果、大きく社会に貢献し、自分の評価も高まるでしょう。

## さまざまな能力を身に付け 協働して社会に貢献する

私の働くDICは、印刷用インクを作る会社です。もちろん印刷用インクの製造について学んだ人ばかりが働いて

いるわけではありません。他企業と契約を結ぶための法律関連の仕事をする人もいれば、営業の人もいます。材料の買い付けや資金調達、広告宣伝など、実にさまざまな種類の仕事で会社は成り立っているのです。

どのような人でも、企業の中では小さな存在ですが、その人の働きがなく

ては会社は成り立ちません。お互いどのような仕事をしているのかを理解し、コミュニケーションを図りながら、皆で協働し、一丸となって仕事をしなくてはなりません。

そして社員は、常に勉強することが求められます。高校を卒業したら勉強は終わりではないのです。仕事で協力

し合って少しでも良いものを作り出すためには、個々人が常に学び、努力し続けることが大切です。どのような仕事に就いたとしても、プロとして専門分野を極めるべく、勉強を怠らないでください。自分の価値を上げる努力をし続けること、それを生きがいとして、社会で活躍してください。

## 生徒との質疑応答

**Q** 三年生の私たちがこれから卒業するまでの数カ月間で、心掛けることはありますか。

**A** 私は日ごろ大事にしていることが、二つあります。まずは、時間に遅れないことです。約束の時間には最低15分前には行きますし、一週間でこの仕事をやれと言われてたら、三日以内に仕上げるようにしています。というのも、自分が完成させた仕事が相手にとって満足いく結果でなかった場合でも、早めに仕上げ持っていけば、足りない部分を指摘してもらい、修正することができるからです。さら

に良いアイデアを考え直す時間もあります。皆さんも、ぜひ時間に余裕を持って行動する癖を付けてください。

もう一つ大事にしていることは、会議などの席では、上司である私が最初に発言しない、ということです。上司

が最初に口を開くと、下の人が意見を言いつらくなるからです。必ずしも社長の意見が正しいわけではなく、社員たちの言うことの方が正しい場合もあります。どのような場合でも、まずは人の意見を聞く姿勢がなくてはなりませ



ん。自分と違う意見だとしても、その人の立場や背景によって意見が違ふのは当然で、どのような意見もある意味で正しい意見です。お互いに認め合い、全員が納得のいく結論を導き出すことが大切だと思います。

### 生徒の感想

●世界の変化を知って住みやすい社会をつくることについては、目標が大き過ぎると思いましたが、世界規模で皆が考えればすべてが良くなるのだと分かりました。

●アルバイトでは、いつも言われたままの仕事をこなすばかりでしたが、成長や変化がとても大切で、自分で何か仕事を見つけて人の役に立たなくては、決して一人前にはなれないことが、よく分かりました。私は進学後に、福祉の仕事を目指しています。自ら考え行動を起こさなくてはいけない仕事なので、より自分を変化させなくてはと思いました。

●日本人としての性なのか、私は協調を大事にするあまり、自分の意見をはっきりと述べられません。他人の意見と自分の意見をまとめて先に進めるのは、本当に難しいと思います。高校生活三年間で、少しずつ人の意見と自分の意見を尊重できるようになってきました。いつしか自分の持つ技術が、誰からも認められ、頼られる存在に

なったとき、自信を持って、会社や社会のため、そして成長していく自分のために、貢献できたらと思いました。

●私は将来が不安になってしまい、「こうだったらどうしよう」とか「ああなるかもしれない」とよく考えます。でも、「生きていく環境の変化に合わせて、自分も変化できる力を付けよう」という話から、もし自分にとって悪いことが起こっても、その変化についていけるようになれば、悪いことも、むしろ良いこととして考えることができるのだから、あまり不安がることもないと思えるようになりました。

●特に印象に残ったのは、「残り少ない高校生活をどのように過ごしたら良いか」という質問に対し、物事は決められた日までに終わるのではなく、三日前、四日前に終わらせておけば、余裕も出て、なおかつ、見直しができる穴をなくすことができるというお答えでした。確かに私は今まで提出物を一日前や提出日になってから書き、穴があって点数を引かれたりすることが多かったので、反省しました。